



応用生態工学会ニュースレター

No.81

Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

2018 (平成 30) 年 8 月 2 日 (木) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者 : 幹事長 北村 匡, 事務局長 青工 淳)

1	はじめに.....	1
2	応用生態工学会第 22 回総会案内.....	2
3	応用生態工学会第 22 回大会案内.....	3
4	行事開催案内	
4.1	応用生態工学会仙台 東北地域研発表・シンポジウム	
	三春ダム竣工 20 周年記念事業 さくら湖自然環境フォーラム 2018.....	30
5	理事会・幹事会報告	
5.1	第 93 回理事会報告.....	32
6	中村理事の紫綬褒章受章について.....	32
7	2018 年度行事の予定.....	33
8	事務局より.....	34

1 はじめに

今号では、学会第 22 回総会案内、学会第 22 回大会の案内、各地の活動状況など、学会の動きをお伝えします。

第 22 回総会案内を掲載しました

会員の皆様には、メールまたはハガキで「応用生態工学会第 22 回総会案内」を近々送信・送付します。返信期限 (9 月 10 日 (月)) までに、出欠と、欠席される会員の皆様は委任状を必ず返信いただきますようお願いいたします。総会の成立には正会員の 1 / 5 以上の出席または委任状が必要です。

応用生態工学会第 22 回大会の案内をお届けします

今年の応用生態工学会第 22 回大会は、9 月 20~23 日に東京工業大学大岡山キャンパスにおいて開催します。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

なお、参加申込期限は 8 月 31 日 (金)、参加費の振込期限は 9 月 7 日 (金)です。大会運営をスムーズに行うため、早期申込と振込にご協力をお願いします。

福島県の三春ダム竣工 20 周年記念事業が開催されます

三春ダムでは、建設前から現在に至るまで、生態系、水質等の環境調査が継続的に実施され、多数の

データが蓄積されています。本事業の趣旨は、竣工後 20 年の節目にこれまでの環境調査の成果等を活用して、ダム湖の生態系・水質等の環境に関する環境保全のあり方、今後の課題等を考えるものです。

学生会員から正会員に継続する場合は初年度に限り年会費が据え置かれます

学生会員の卒業時における正会員への継続促進を図るため、学生会員から正会員に継続する場合、初年度に限り年会費が学生会員会費に据え置かれることとなりました。第 93 回理事会報告をご覧ください。

2 応用生態工学会第 22 回総会案内

応用生態工学会第 22 回総会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様のご出席をお願いします。

第 22 回総会は、応用生態工学会第 22 回大会の 3 日目に開催します。

日 時：平成 30 年 9 月 23 日（日） 10：30～11：30

場 所：東京工業大学大岡山キャンパス 西 9 号館 デジタル多目的ホール

なお、総会の成立には正会員の 1/5 以上の出席または委任状が必要です。総会に欠席される正会員の方は、別途、学会事務局より送信・送付する委任状（電子メールまたはハガキ）に必要事項を記入のうえ、9 月 10 日（月）までに事務局までご返信くださいますよう、お願いいたします。

総会資料は、9 月初めにホームページに掲載する予定ですので、ご確認ください。

3 応用生態工学会第 22 回東京大会案内

応用生態工学会第 22 回東京大会

2018 年（平成 30 年）9 月 20 日（木）～9 月 23 日（日）

第 22 回総会・研究発表会・公開シンポジウム・自由集会・エキスカーショ

1. 大会概要

応用生態工学会では、2018 年（平成 30 年）9 月 20 日（木）～23 日（日）に東京都目黒区（東京工業大学大岡山キャンパス）にて、第 22 回東京大会を開催します。

9 月 21 日（金）～22 日（土）に行われる研究発表では、41 件の口頭発表、71 件のポスター発表が行われます。また、自由集会等は 12 の集会が企画されています。

9 月 23 日（日）には、公開シンポジウム『ダム湖や周辺環境の保全と再生に向けて－ダム再生ビジョンと環境保全－』を開催します。ダムは近年の気候変動の顕在化による洪水や渇水リスクの増大に対応する重要なインフラですが、環境への影響もあり、アセスメントに基づく様々な環境保全措置が実施されています。ダムの機能と生態系保全を両立させるため、ダム湖やダム下流の河川環境のより適切な管理が求められています。そこで公開シンポジウムを実施し、これらの課題に関する国内外の事例・知見を総括し、今後の課題や展望を議論します。なお、このシンポジウムは公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

大会初日の 9 月 20 日（木）には、首都圏で唯一建設中のダムである八ッ場ダム（平成 31 年度完成予定）を見学するエキスカーションを行います。

なお、本大会は、土木学会継続教育（CPD）プログラムに申請しています。

【会場】

○研究発表・総会・公開シンポジウム：東京工業大学大岡山キャンパス、西 9 号館

住所：東京都目黒区大岡山 2-12-1

電話：03-5841-8205（吉村研究室）

URL：URL: <https://www.titech.ac.jp/maps/>

○懇親会：東京工業大学 大岡山キャンパス 第一食堂（大学食堂 1 階）

○エキスカーション：八ッ場ダム建設現場 他

【大会日程】

9 月 20 日（木）

エキスカーション 八ッ場ダム

9:30 JR 上越新幹線・高崎線「高崎駅」出発

なるほど八ッ場資料館（バス乗り換え）～浅間酒造観光センター（昼食）～立馬沢のホタル水路（見学）～第一小学校ビオトープ（見学）～骨材プラント（見学）～ダム上部右岸側（見学）～旧熊の茶屋（降車徒歩移動）～ダム下流左岸高台（見学）～旧熊の茶屋（乗車）～道の駅 吾妻峡（バス乗り換え）

18:00 ごろ 「高崎駅」解散（道路交通事情により到着時間が異なります。）

9 月 21 日（金）

・自由集会「河川汽水域における自然再生 2～河川法改正 20 年 汽水域の川づくりを振り返る～」

9:00～11:00 デジタル多目的ホール

・自由集会「河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会」

9:00～11:00 W933 講義室

- ・自由集会「ダム下流における土砂供給の効果を評価するための簡易手法について
～現場への適用を目指して～」 9:00～11:00 W935 講義室
- ・報告会「会誌編集委員会報告－会誌の活性化を図るために－」 12:00～13:00 W933 講義室
- ・ポスター発表（コアタイムA） 11:00～12:00 コラボレーションルーム
- ・ポスター発表（コアタイムB） 13:00～14:00 コラボレーションルーム
- ・自由集会「平成 29 年九州北部豪雨災害調査団報告」 14:00～17:00 デジタル多目的ホール
- ・自由集会「御嶽山麓に見られる強酸性水,崩壊地形,火山噴出物と生物の営み」
14:00～16:00 W933 講義室
- ・自由集会「若手研究者・技術者をつなぐ研究交流会」 14:00～16:00 W935 講義室
- ・自由集会「グリーンインフラの推進に向けた現場技術者の役割」 16:00～18:00 W933 講義室

9 月 22 日（土）

- ・口頭発表 9:00～12:00 デジタル多目的ホール, W933 講義室
13:00～15:30 デジタル多目的ホール, W933 講義室
- ・自由集会「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？その 3
－水田水域における多様な生物の保全と再生－」 13:00～15:00 W935 講義室
- ・自由集会「グリーンインフラを原点から考える」 15:30～17:30 デジタル多目的ホール
- ・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ」 15:30～17:30 W933 講義室
- ・自由集会「これからどうなるコウノトリの野生復帰」 15:30～17:30 W935 講義室
- ・懇親会 18:00～20:00 第一食堂(大学食堂棟 1 階)

9 月 23 日（日）

- ・総会 10:30～11:30 デジタル多目的ホール
- ・発表賞表彰 11:30～12:00 デジタル多目的ホール
- ・公開シンポジウム
「ダム湖や周辺環境の保全と再生に向けて－ダム再生ビジョンと環境保全－」
13:00～17:00 デジタル多目的ホール

<参加／発表される皆様へ>

《受付》

- ・9 月 21 日(金)は, 8:30 から参加の受付を開始します. 受付は, 時間帯によって非常に混雑することが予想されます. 早めに受付をお済ませください.
- ・9 月 22 日(土)は, 8:30 から参加の受付を開始します. 発表者のパワーポイントファイルの受付は 8:30 から行います.
- ・9 月 23 日(日)の総会は, 10:00 から参加の受付を開始します.
- ・9 月 23 日(日)の公開シンポジウムは, 12:30 から参加の受付を開始します. 公開シンポジウムのみに参加される方は無料です.
- ・9 月 20 日(木)のエキスカーションは, 参加申し込みをされた方に, 集合や移動, 注意事項等の詳細を改めてお知らせします.
- ・受付は西 9 号館 2 F のエントランスです. 名札をお渡ししますので, 会場内では必ず名札を付けてください.
- ・研究発表会参加費は, 会員 6,000 円, 非会員 10,000 円, 学生 (会員・非会員) 3,000 円です. 参加費

には講演要旨集の料金が含まれています。大会運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください。

・懇親会参加費は会員・非会員 5,000 円、学生（会員・非会員）3,000 円です。当日、会場にて徴収いたしますが、参加者人数を把握する必要がありますので、参加の有無について事前にお申込みください。

《口頭発表される方へ》

・口頭発表は全て備え付けのパソコンとプロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OS は Windows 10、プレゼンテーションソフトは Power Point 2016 (Office 2016) です。Mac, 古いバージョンの Power Point, あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前に Power Point 2016 で動作するか確認を行ってください（動作確認を希望される方は会場係に申し出てください）。また、備え付けのパソコンは、通常の Windows 10 日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。

・パワーポイントのファイルは、発表番号と発表者の名字の英語表記をファイル名とし（例：A01_osugi）、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USB メモリ、または SD カードで持参してください（MO, DVD, CD-RW は不可）。提出期限は以下のとおりです。

9 月 22 日(土)	午前セッション (A, B, C, F, G, H)	9:00 まで
	午後セッション (D, E, I)	12:00 まで

・発表時間は発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。1 鈴：10 分、2 鈴：12 分、3 鈴：14 分 30 秒です。時間厳守にご協力ください。

・発表直前にパソコンへファイルをコピーされる場合は、その作業時間も発表時間とみなします。上記提出期限までにファイルを提出していただくことをお勧めします。

・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で操作される方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表される方へ》

・ポスター発表の会場は、コラボレーションルームです。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。

・ポスターは横 90 cm、縦 170 cm 以内のサイズで作製してください。ただし、縦のサイズは床からのパネル高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします（A0 判 841mm×1,189mm を推奨します）。

・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けてください。

・ポスターの掲示期間は 9 月 21 日(金)～22 日(土)15:30 までの期間とし、ポスターは 21 日(金)の 8:30～11:00 の間に持参者自身で掲示してください。

・ポスター発表の発表件数が多いため、コアタイムは 2 部制にいたします。各コアタイムとも 1 時間です。

・コアタイム A（発表番号末尾奇数の方）は、9 月 21 日(金)11:00～12:00、コアタイム B（発表番号末尾偶数の方）は、9 月 21 日(金)13:00～14:00 です。ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され、自分の該当するコアタイムでは、ポスターの前で発表を行ってください。

・ポスターの撤収は、9 月 22 日(土)18:00 までに持参者自身で行ってください。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分します。

・ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付ける押しピン、セロテープ等は会場に準備しています。指示棒などは各自持参してください。

・PC などの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また、大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。

《発表賞》

・申請のあった若手研究者、現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します。研究の内容、プレゼンテーション技術などを基準に審査します。口頭／ポスターおよび研究／事例の各類別（全4 類別）について秀でた発表に優秀発表賞（各若干名）を、最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞（各1 名）を授与します。

・23 日（日）の総会（10:30～11:30）に続いて、優秀発表賞の表彰を行います。

・発表者が変更となる場合は、事務局へ申し出てください。

2. 公開シンポジウム

＜このシンポジウムは、公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています。＞

【テーマ】

「ダム湖や周辺環境の保全と再生に向けてーダム再生ビジョンと環境保全ー」

【企画のねらい】

ダムは近年の気候変動の顕在化による洪水や渇水リスクの増大に対応する重要なインフラですが、環境への影響もあり、アセスメントに基づく様々な環境保全措置が実施されています。ダムの機能と生態系保全を両立させるため、ダム湖やダム下流の河川環境のより適切な管理が求められています。そこで公開シンポジウムを実施し、これらの課題に関する国内外の事例・知見を総括し、今後の課題や展望を議論します（同時通訳あり）。

【公開シンポジウム プログラム(案)】

9 月 23 日（日）

- | | | |
|-------------|-----------------------------|---------------------------|
| 13:00～13:05 | 挨拶・趣旨説明 | 吉村千洋大会実行委員長（東京工業大学准教授） |
| 13:05～14:00 | 招待講演（仮）「メコン川のダムの影響」 | John. L. Sabo（アリゾナ州立大学教授） |
| 14:00～14:20 | 講演（仮）「土砂動態とダムに関する最新の知見」 | 角哲也（京都大学教授） |
| 14:20～14:40 | 講演（仮）「ダム下流生態系の管理と課題」 | 竹門康弘（京都大学准教授） |
| 14:40～15:00 | 講演（仮）「ダム再生ビジョンの紹介」 | 奥田晃久（国土交通省水管理・国土保全局調整官） |
| 15:00～15:20 | 講演（仮）「グリーンレーザー等新技術の活用」 | 中村圭吾（土木研究所水環境研究グループ上席研究員） |
| 15:20～15:40 | 講演（仮）「ダムの影響と可能な改善策に関する話題提供」 | 根岸淳二郎（北海道大学准教授） |

＜休憩＞

15:50～17:00 パネルディスカッション

コーディネーター：吉村千洋（東京工業大学准教授）、パネリスト：講演登壇者

17:00 終了予定

【参加費】無料



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

3. 自由集会 等

12 の自由集会・報告会が開催されます。集会には所属等によらず参加でき、事前申込は不要です。

A. 「河川汽水域における自然再生 2～河川法改正 20 年 汽水域の川づくりを振り返る～」

【企画】乾 隆帝（山口大学大学院 創成科学研究科）

【日時・会場】9 月 21 日(金)9:00～11:00 デジタル多目的ホール

【趣旨】河川汽水域は、特有の生物が生息し、貴重種も多い特殊な生態系である。しかしながら、人為的環境変化が、生態系や生物多様性に負のインパクトを与え続けているため、それらの軽減ならびに自然再生が緊急の課題である。一方、河川汽水域における自然再生は事例自体が少ないため、有効な技術的手法が体系化されていないのが現状である。本集会では、河川汽水域における自然再生の事例として、福岡県遠賀川の多自然魚道（九州大学 鬼倉徳雄）、福岡県室見川におけるシロウオの産卵場造成（福岡大学 伊豫岡宏樹）、沖縄における希少魚類の保全事例（いであ 鳥居高志、沖縄環境調査（株）平中晴朗）を紹介し、今後の河川汽水域における環境保全ならびに自然再生のあり方について議論していきたい。

【プログラム】

- 1 イン트로・開催趣旨（山口大 乾隆帝）
- 2 福岡県遠賀川の多自然魚道（九州大学 鬼倉徳雄）
- 3 福岡県室見川におけるシロウオの産卵場造成（福岡大学 伊豫岡宏樹）
- 4 金武ダム下流河川におけるタナゴモドキ生息場の創出（いであ（株）鳥居高志）
- 5 中城湾におけるトカゲハゼの保全（沖縄環境調査（株）平中晴朗）
- 6 総合討議

B. 「ダム下流における土砂供給の効果を評価するための簡易手法について ～現場への適用を目指して～」

【企画】宮川幸雄（土研）、小野田幸生（土研）

【日時・会場】9 月 21 日(金)9:00～11:00 W933 講義室

【内容】上流からの土砂がダムの貯水池に堆積することで、下流河床の粗粒化、アーマー化が進行する。これらを解消するため、ダム下流に人工的に土砂供給を行う取り組みが全国で実施されている。この土砂供給の効果およびその評価方法については、特に水産有用魚のアユを対象に様々な報告がある。例えば、アユに対する巨石や浮き石の割合の重要性、アユによる石の利用を石の露出高（土砂による埋没度合）で評価する手法の検証等である。ただし、このような手法の現場適用に際しては、河床の状態についての計測コストが膨大であるという課題がある。これに対し、河床の状態に関する要素を変数としてモデルに組み込み、予測する手法も検討されている。このとき、正確性を追求する予測モデルは複雑となるが、いくつかの仮定を置いた上で簡易化することで、利便性が高く現場に適用しやすいツールとして活用できる可能性がある。例えば、データの蓄積がある河床粒径分布のデータを活用し、いくつかの仮定のもと、石の露出高を簡易的に予測できるモデルが構築されている。ただし、このような予測手法を現場適用するにあたっては、現場データとの整合性の確認のほか、設定した仮定が一般的な土砂水理学等に照らして妥当かどうかについても吟味が必要といえる。そこで本集会では、ダム下流における土砂供給がアユの生息場所に及ぼす効果の評価を主な事例として、評価する上でキーとなる指標およびこれらの指標を用いた簡易予測手法の妥当性と適用範囲について意見交換を行いたい。

【プログラム】

○趣旨説明（10 分程度） 担当：宮川

○話題提供（20 分×4 題）（括弧内は名前と所属、敬称略）

- ・河床環境の評価でキーとなる指標の紹介（坪井、水産研究・教育機構）

- ・変量を用いた定量化により河床環境の評価を試みた事例（小野田，土研）
- ・河床に関する理論・モデルに関する話題（田代，名古屋大学）
- ・河床に関する簡易モデルを設定し、現場への適用を試みた事例（宮川，土研）

○総合討論（20 分程度）

コメンテーターは別途調整中

C. 「河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会」

【企画者】中村太士（北大）・一柳英隆（WEC）

【日時・会場】9 月 21 日（金）9:00～11:00 W935 講義室

【内容】日本の河川・ダムでは、国土交通省やその他管理者が、流量や水位、水温・水質、生息する生物相（河川水辺の国勢調査）など多くのデータを継続的に取得している。これらのデータを集約して整理することで、個人の取得のみでは成し得ない広域・長期の解析が可能になる。しかし、これらのデータは、河川・ダム管理者が使用する前提で管理されており、広域・長期で利用しようとする研究者にとっては必ずしも利用しやすい形にはなっていない。今回の意見交換会は、研究者側と河川・ダム管理者との意見交換を行い、両者にとって良い形を探ろうとするものである。

D. 報告会「会誌編集委員会報告－会誌の活性化を図るために－」

【企画者】会誌編集委員会幹事会：萱場祐一、西浩司、三宅洋、山田浩之、尾花まき子

【日時・会場】9 月 21 日（金）12:00～13:00 W933 講義室

【内容】会誌「応用生態工学」は、2018 年 5 月に従来の 2 年間の閲覧制限が撤廃され、刊行後ただちに JSTAGE 上で閲覧、ダウンロードが可能になりました。また、特集企画を会員から募集する取り組みも始めています。このような変革を機に、会誌編集委員会では、会誌「応用生態工学」の更なる活性化を目的として、1)会誌編集の現状報告、2)会誌編集プロセスの解説、を行い、会員の皆様との議論から 3)会誌および編集方法の疑問・要望を抽出することとしました。日頃から会誌の有り方や会誌編集の方法について疑問・要望を感じておられる方はもちろん、これから論文投稿される方等多数の方にご参加頂きたいと考えております。

【プログラム】

- 1) 会誌編集の現状報告
- 2) 会誌編集プロセスの解説
- 3) 会誌および編集方法の疑問・要望
(ランチョンミーティング)

E. 「平成 29 年九州北部豪雨災害調査団報告」

【企画者】応用生態工学会九州北部豪雨災害調査団 団長 島谷幸宏、副団長 萱場祐一 皆川朋子

【日時・会場】9 月 21 日（金）14:00～17:00 デジタル多目的ホール

【主旨】2017. 7 月九州北部豪雨は極めて規模の大きな災害であり、その災害復旧の在り方によっては地域の生態系に大きな影響を与え、地域の持続的な暮らしにさえ影響を与えることが懸念されることから、これらの影響を科学的に把握し、今後の生態系保全、地域づくりに活かしていくことが必要である。また、災害復旧においては、今日的課題である気候変動への適応策、グリーンインフラの活用、ECO-DRR を踏まえた具体的な提案を行うことが重要である。

以上から、応用生態工学会では、公募により集まった生態学、河川工学、地形学など、様々な分野の会員から構成される「平成 29 年 7 月九州北部豪雨調査団」を結成し、以下の基本的な考えに基づき調査を実施した。自由集会では、調査結果を報告するとともに、「持続的で豊かな暮らしと環境を再生する」ための基本的な考え方（提言）について議論を行う。

- ① 大規模災害を引き起こした自然的インパクトが生態系、地域社会に及ぼす影響を広域的かつ中長期的視点から評価する。
- ② 「人と生物の共存」、「生物多様性の保全」、「健全な生態系の持続性」といった従来の視点に加えて、今後の学会の発展の方向軸として「健全な生態系を持続的な国土管理に活用する」という視点を位置づけ、グリーンインフラの活用、Eco-DRR を踏まえた復旧となるよう提言を行う。
- ③ ①②の目標を達成するための調査として位置付ける。なお、①の視点から調査を継続するとともに、②については事後的な調査を実施し、提言の適宜、災害復旧事業への反映の程度等を評価することとする。

F. 「御嶽山麓に見られる強酸性水、崩壊地形、火山噴出物と生物の営み」

【企画者】田代 喬（名古屋大学）、松本嘉孝（豊田高専）

【日時・会場】9月21日(金) 14:00～16:00 W933 講義室

【内容】御嶽山は、長野県と岐阜県の県境に聳える火山であり、その山麓には強酸性を有する湖沼や河川を多く有する。南山麓に位置する王滝川集水域では、戦前から下流河川で水資源開発が進められたうえ、強酸性を呈する源頭部の河川水系では、1989 年の長野県西部地震に伴う大規模な山体崩壊である「御嶽崩れ」、2014 年の「水蒸気爆発」による噴火といった自然災害の影響を色濃く受けながら、大規模な治山・砂防整備事業が進められて現在に至っている。

日本陸水学会東海支部会では、2014 年の噴火以降、濁川を含む王滝川水系において、地形、水質といった環境基盤に関する調査とともに、付着藻類、水生昆虫、魚類といった生物相に関する調査を進めてきた。本自由集会では、御嶽山南麓に位置する濁川集水域における生物分布の現状を紹介し、崩壊や噴火の影響を推測しつつ、火山山麓に成立してきた特殊な陸水生生態系について参加者と情報共有し、今後の調査研究のあるべき姿を考えたい。

【プログラム】

○趣旨説明（5 分程度） 担当：松本

○話題提供（15 分×5 題）

- ・御嶽山麓水系の水質特性、特に主要イオン濃度の分布（松本嘉孝）
- ・御嶽山麓水系の水質特性、特に微量元素の分布（宇佐見亜希子）
- ・強酸性を呈する河川水系に形成された付着藻群落とその一次生産（野崎健太郎）
- ・火山活動と水生昆虫群集：2014 年噴火後の回復過程（田代 喬）
- ・火山活動に関する強酸性水および崩壊地形に規定されるイワナの分布（小野田幸生）

○総合討論（40 分程度） 担当：田代

コメンテーター：火山地質、あるいは、河川生態に関する学識者

G. 「若手研究者・技術者をつなぐ研究会（第 22 回 東京大会）」

【企画者】応用生態工学会 若手の会

【日時・会場】9月21日(金)14:00～16:00 W935 講義室

【内容】応用生態工学会・若手の会は、応用生態工学を志す若手研究者や技術者をつなぐ研究会を実施します。同じ若手でも分野が違ふと今ひとつお互いのことを知らないのではないかと思います。まずはフランクに自己紹介や研究紹介を通じて交流しましたでしょうか？若手の皆さんには、土木工学や生態学など専門分野を立ち位置とされている方のほか、分野横断的な研究にいきなり入られた方も多いかと思います。総合的な対応力を身につけたい思いもある中で、境界領域ならではの研究面やキャリアパスに悩みも多いかと思います。また、学会の今後を担っていく若手の一人として、応用生態工学という学問や学会のあり方に思いを持たれている方もいらっしゃるでしょう。悩みや思いは人それぞれかと思いますが、話のきっかけになるような話題提供を用意しますので、気軽にディスカッションしてみませんか。

か？

この研究集会は年に一回のベーシックな意見交換の場になるよう、継続的に運営していきたいと思っています。皆さんのご参加をお待ちしております。

【プログラム】

- (1) 新規若手の会運営委員紹介
- (2) 趣旨説明
- (3) 話題提供・ディスカッション
- (4) 自己紹介（参加者）
- (5) お知らせと意見募集

・次回、応用生態工学会若手の会つどい勉強会について

・その他

※ご参加を希望される方は、事前に大概（k-ootsuki55@pwri.go.jp）までご連絡いただけるとありがたいです。

H. 「グリーンインフラの推進に向けた現場技術者の役割」

【企画者】小笠原 奨悟（パシフィックコンサルタンツ株式会社）、 幸福 智（いであ株式会社）、 西田 貴明（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）

【日時・会場】9月21日(金)16:00～18:00 W933 講義室

【内容】グリーンインフラは、応用生態工学会の目指す「生態学と土木工学の境界領域」に位置する概念であり、持続可能な社会の形成に向けた施策として、期待が高まっている。また、国内外の学会や研究プロジェクトでも議論・研究が行われているだけではなく、行政計画の施策として位置付けられるなど、社会への浸透が進みつつあるといえる。

一方で、今後のさらなる推進に向けては、研究者や行政の関与だけではなく、民間企業や地域住民なども含む、多様なステークホルダーによる連携が望まれている。その中で、行政計画や公共事業だけではなく、民間の開発事業等にも関わり、グリーンインフラに関連する技術や経験を有する建設コンサルタントが貢献できることもあるのではないだろうか。

本集会では、グリーンインフラの推進に向けて、建設コンサルタントが担う役割に焦点をあて、これから求められる視点や取組について議論を行う。また、グリーンインフラが普及する社会において、コンサルタントを取り巻く市場や求められる能力がどのように変化しうるのか、現行の枠組みにとらわれず、幅広い視野での議論を行いたい。

【プログラム】

①趣旨説明

小笠原 奨悟（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

②推進に向けた視点と建設コンサルタントの役割

幸福 智（いであ株式会社）

吉原 哲（八千代エンジニアリング株式会社）

長野 紀章（株式会社建設技術研究所）

西田 貴明（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）

小笠原 奨悟（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

③ディスカッション：推進に向けて求められる取組

I. 「田んぼのいきものをどうやって守っていくか？その 3 ー水田水域における多様な生物の保全と再生ー」

【企画者】田和康太（土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム）・佐川志朗（兵庫県立大学/兵庫

県立コウノトリの郷公園)・河口洋一(徳島大学)

【日時・会場】9月22日(土)13:00~15:00 W935 講義室

【内容】水田とその周辺の農業水路やため池などから成る水田水域は、近代まで生物多様性の高い空間であった。しかし、全国的な傾向として、戦後の強毒性農薬の使用や1960年代から本格化した圃場整備事業による水域の連続性消失、中山間部での耕作放棄の進行等により、水田水域における生物多様性は大幅に低下した。そうした中、減・無農薬栽培や湿田および未整備の水田の特性を生かした工法と農法の導入など、1990年代頃から水田の生物多様性保全に着目した様々な取り組みが各地で実施され、その効果が期待されている。農業水路やビオトープ、承水路といった生物の生息場に着眼した昨年の集会では、実際の農業の現場で、どのように保全をすすめていくかが大きな議論となった。今年度は、様々な立場の演者の方々に、本来の水田が有している生き物を守る役割や、現在の現場で起こっている問題などに関して発表いただき、各演者の考える保全策をもとに、水田水域における生物の保全を将来的にどのような手段で進めていくべきか議論する。

【プログラム】

<趣旨説明>

田和康太

<話題提供>

① 伝統的な水田水域と圃場整備された水田域における魚類の繁殖と保全(仮)

皆川明子(滋賀県立大学)

② 岐阜県の農業用排水路の現状とそこにすむ魚類の多様性(仮)

米倉竜次(岐阜県水産研究所)

③ 水田水域と氾濫原における両生類・止水性水生昆虫の保全(仮)

田和康太(土木研究所)

④ 豊岡盆地の湿地環境が持つ水生動物保全機能(仮)

佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)

⑤ 水田一水路の生物多様性と農業の共生に向けて(仮)

並木 崇(WWF ジャパン自然保護室)

<総合討論> 司会: 河口洋一

J. 「グリーンインフラを原点から考える」

【企画者】西廣淳(東邦大学)

【日時・会場】9月22日(土)15:30~17:30 デジタル多目的ホール

【内容】「グリーンインフラ」という言葉は国土形成計画をはじめ複数の政策・方針に盛り込まれるようになり、その知名度は高まっている。またグリーンインフラをキーワードにした研究プロジェクトもいくつか進行している。しかし、その指し示す内容についての共通認識は、研究者や行政官の間でさえ十分に構築できているとはいえない。緑化や多自然川づくりなどの概念との差異も不明確である。この集会では、「グリーンインフラストラクチャー=自然を活かした社会基盤」という認識を原点に、グリーンインフラの構築・形成の推進は社会に何をもたらすのか、より社会に役立つものにするためにはどのような研究が必要なのか、という点について、グリーンインフラの取り組みを検討・推進している事例をもとに議論する。

【プログラム】

・千葉県印旛沼流域における「里山グリーンインフラ」の議論と取り組み(東邦大・西廣淳)

・中小河川における治水とグリーンインフラ(土木研究所・大槻順朗)

・福井県三方五湖流域における生態系を活用した防災減災(地球研/東京大・吉田丈人)

・茨城県守谷市における官民連携のグリーンインフラ推進の取り組み（福山コンサルタント・長谷川啓一）

K. 「小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ」

【企画者】原田守啓（岐阜大学），三橋弘宗（兵庫県立大学），林博徳（九州大学）

【日時・会場】9 月 22 日（土）15:30～17:30 W933 講義室

【内容】2012 年に第 1 回の自由集会を開催したことを機に，小さな自然再生に取り組む仲間のネットワークが形成され，JRRN の支援を得ながら事例集の出版，ウェブサイトを通じた情報発信，講習会の開催などを行なってきました．また，新たに取り組みを始める地域や主体も全国的に増えてきました．中小河川における多自然川づくりの補完としての役割や，地域コミュニティの再生という効用にも期待が高まっています．

しかしその一方で，「水辺の小さな自然再生は生態系保全にどれほど効果があるのか？」「検証はきちんとされているのか？」「どれくらいやったら，効果があったといえるのか？」といった疑問の声も，良く聞かれます．第 6 回となる今回は，過去の国内外での事例をレビューしながら，そんな疑問の答えを探っていききたいと思います．

【プログラム】

1. 企画趣旨： 原田
2. 国際的なマイナーレステーションのレビュー
3. 検証がきちんと為されている事例：2，3 事例話題提供
4. 流域全体の環境目標という観点からの期待：
5. 総合討議
6. 総括コメント

L. 「これからどうなるコウノトリの野生復帰」

【企画者】佐川志朗，江崎保男（兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園）

【日時・会場】9 月 22 日（土）15:30～17:30 W935 講義室

【内容】我が国のコウノトリ個体群は 1971 年に絶滅した．その後，紆余曲折を経て飼育下繁殖に成功し，2005 年には試験放鳥，2007 年には野外での繁殖が確認されるに至った．さらに野外の個体群は，但馬地域内に恒常的な繁殖地 10 箇所を構え，近年では，徳島県鳴門市，島根県雲南市，福井県越前市など但馬地域外へも営巣地が拡大している．また，関東地方では本種の定着を最終目標とした関東エコロジカルネットワーク事業が大規模に展開され，対象エリアの地方自治体（千葉県野田市）では，拠点の建設，個体の放鳥が継続され，鴻巣市でも事業化が検討されている．本集会では野生復帰の時系列展開を概説し，各エリアにおける最新の研究成果を紹介して，応用生態工学会としての野生復帰へのかかわりを考えてみたい．

【プログラム】

1. 趣旨説明：野生復帰の全国展開
佐川志朗（兵庫県立大）
2. 福井県越前市大塩地区における営巣プロセス
日和佳政（越前市）
3. 中国・四国地方におけるコウノトリの生息適地解析
河口洋一（徳島大）
4. 関東地方における飛来からみた定着場所推定
片山直樹（農研機構 農業環境変動研究センター）
5. 遺伝的多様性の保持対策

内藤和明（兵庫県立大）・大橋直哉（東京都建設局）・中島亜美（多摩動物公園）

6. 野外個体の致死影響要因

松本令以（兵庫県立コウノトリの郷公園）

7. 議論：野生復帰に対する応用生態工学の役割

4. 賛助会員展示コーナー

賛助会員等による企業紹介，技術紹介等の展示を行います。

場所：西 9 号館 メディアホール

期間：9 月 21 日（金）11:00 ～ 23 日（日）13:00

5. エクスカーション

エクスカーションは，平成 31 年度完成予定の八ッ場ダムを見学します。

八ッ場ダムは，関東地方で唯一建設が進められているダムで，洪水調節，流水の正常な機能の維持，水道及び工業用水の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムです。八ッ場ダムでは，ホテルの生息環境の保全，エコスタックの設置，貴重な植物の保護等の環境保全に取り組むほか，日本一のインフラ観光ツアー・八ッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ」や教育旅行プログラムとして小・中学生向けまるごとやんば体験ツアーなど，さまざまな取り組みが行われています。なお，応用生態工学会として建設中ダムのエクスカーションは初めてとなります。

【コース・日程(予定)】

9 月 20 日(木) 09:30 JR 上越新幹線・高崎線「高崎駅」出発

11:00 なるほど八ッ場資料館（見学，バス乗り換え）

12:00 浅間酒造観光センター（昼食 1 時間）

13:10 立馬沢のホテル水路（見学）

13:35 第一小学校 ビオトープ（見学）

14:20 骨材プラント（見学）

15:00 ダム上部右岸側（見学）

15:30 旧熊の茶屋（バス降車，徒歩で移動）

15:40 ダム下流左岸高台（見学）

16:00 旧熊の茶屋（バス乗車）

16:05 道の駅 吾妻峡（バス乗り換え）

18:00 ごろ 「高崎駅」解散（道路交通事情により到着時間が異なります。）

※定員 40 名 先着順とします。

※参加申し込みをされた方には，集合や移動，注意事項等の詳細を改めてお知らせします。

※「高崎駅」までの交通費は各自負担です。

※昼食はお弁当をご持参いただくことも可能です。昼食をご希望の方は，事前にご連絡ください。

6. 懇親会

懇親会は，9 月 22 日（土）18:00 から第一食堂（西 9 号館の向かい大学食堂棟 1 階）で行います。また，毎回好評の「各地域研究会が持ち寄るお土産品」コーナーも充実しております。ぜひご参加ください。

【日時】

平成 30 年 9 月 22 日（土） 18:00～20:00

【会場】

東京工業大学 第一食堂(大学食堂棟1階)

住所：〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 大学食堂棟

電話 : 03-5734-2397

7. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくは参加申込用紙の FAX 送信によりお申込みください。申込期限は 8 月 31 日 (金), 参加費の振込期限は 9 月 7 日 (金) です。

参加申込フォーム: https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_conEntry

FAX によるお申込は、『参加申込書』にご記入のうえ, 下記までお申込ください。

FAX 宛先 : 03-5216-8520

【参加費】

〔1〕研究発表会

会員(正会員・賛助会員) : 6,000 円, 非会員 : 10,000 円, 学生(会員・非会員) : 3,000 円

※参加費には講演要旨集が含まれています。講演要旨集のみ希望の方は, 3,000 円で販売しています。

※大会期間中, 大学構内にある学食は, 21 日(金)のみ営業しています。大学周辺には飲食店, スーパーマーケット, コンビニエンスストアがあります。別途 1,000 円でお弁当の用意ができます。希望される方は, 参加申込時にあわせてお申し込みください。

〔2〕エクスカーション

会員 (正会員・賛助会員) : 2,000 円, 非会員 : 3,000 円, 学生(会員・非会員) : 1,000 円

立寄り先の「浅間酒造観光センター」で昼食時間をとります。昼食はお弁当をご持参いただくことも可能です。昼食 (予算 1,000 円以内) をご希望の方は, ご用意することもできますので事前にご連絡ください。

〔3〕懇親会

会員(正会員・賛助会員)・非会員 : 5,000 円, 学生(会員・非会員) : 3,000 円

懇親会費は当日, 会場で徴収します。人数を把握するため, 参加される方は事前にお申し込みください。

【参加料振込先】

〔1〕銀行振込口座

銀行名 : 三菱東京 UFJ 銀行麹町中央支店

口座番号 : (普通)1302920

〔口座名称〕 応用生態工学会 (オウヨウセイタイコウガクカイ)

〔2〕郵便振替口座

口座番号 : 00140-7-404275

口座名称 : 応用生態工学会

8. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520

E-mail : tokyo_22th@ecesj.com

－ 会場へのアクセス －

【会 場】

東京工業大学大岡山キャンパス西 9 号館

(東京都目黒区大岡山 2-12-1)

電話：03-5841-8205 (吉村研究室)

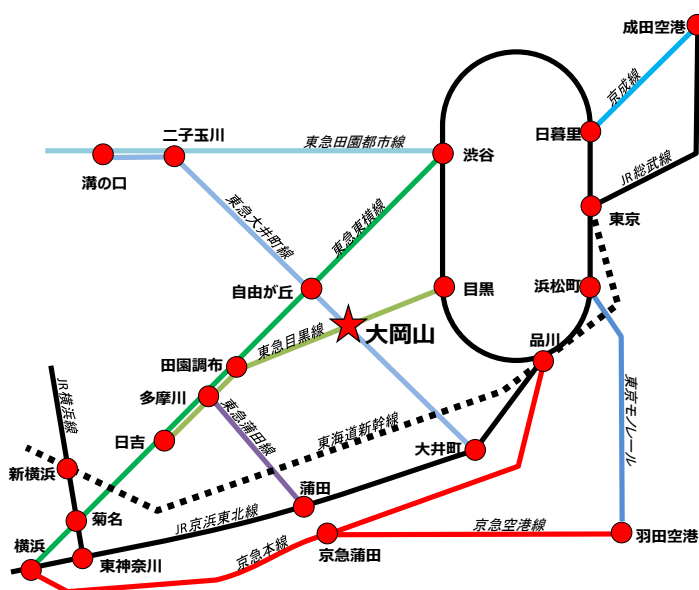
URL：URL：https://www.titech.ac.jp/maps/

【会場までの主な交通機関】

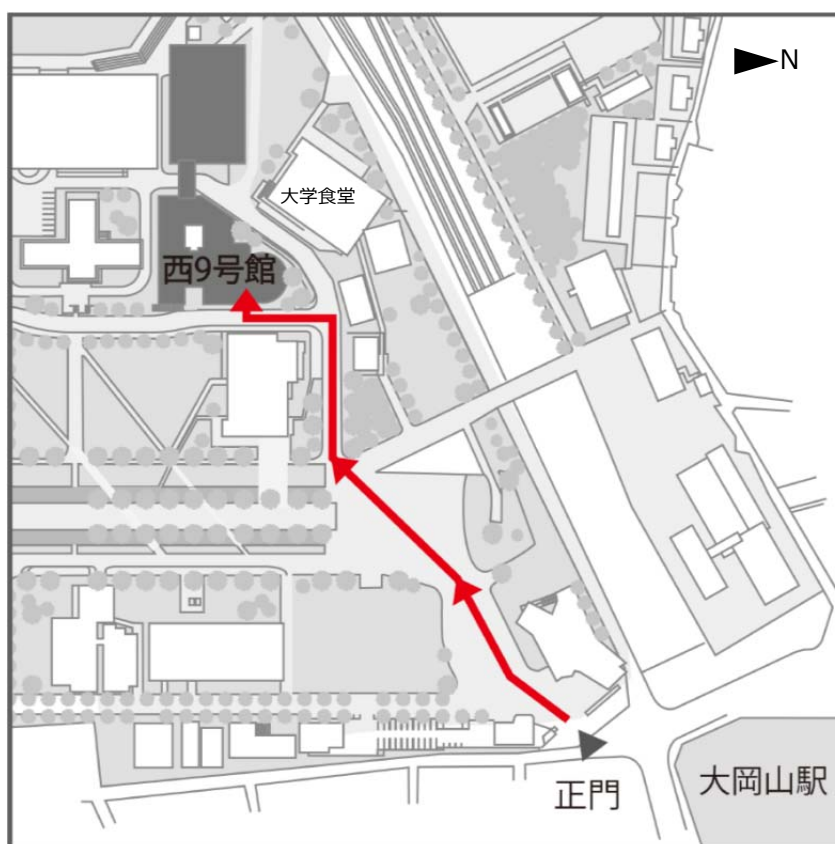
■最寄駅

大岡山駅 (東急大井町線・目黒線)

(急行停車駅) 下車徒歩 1 分

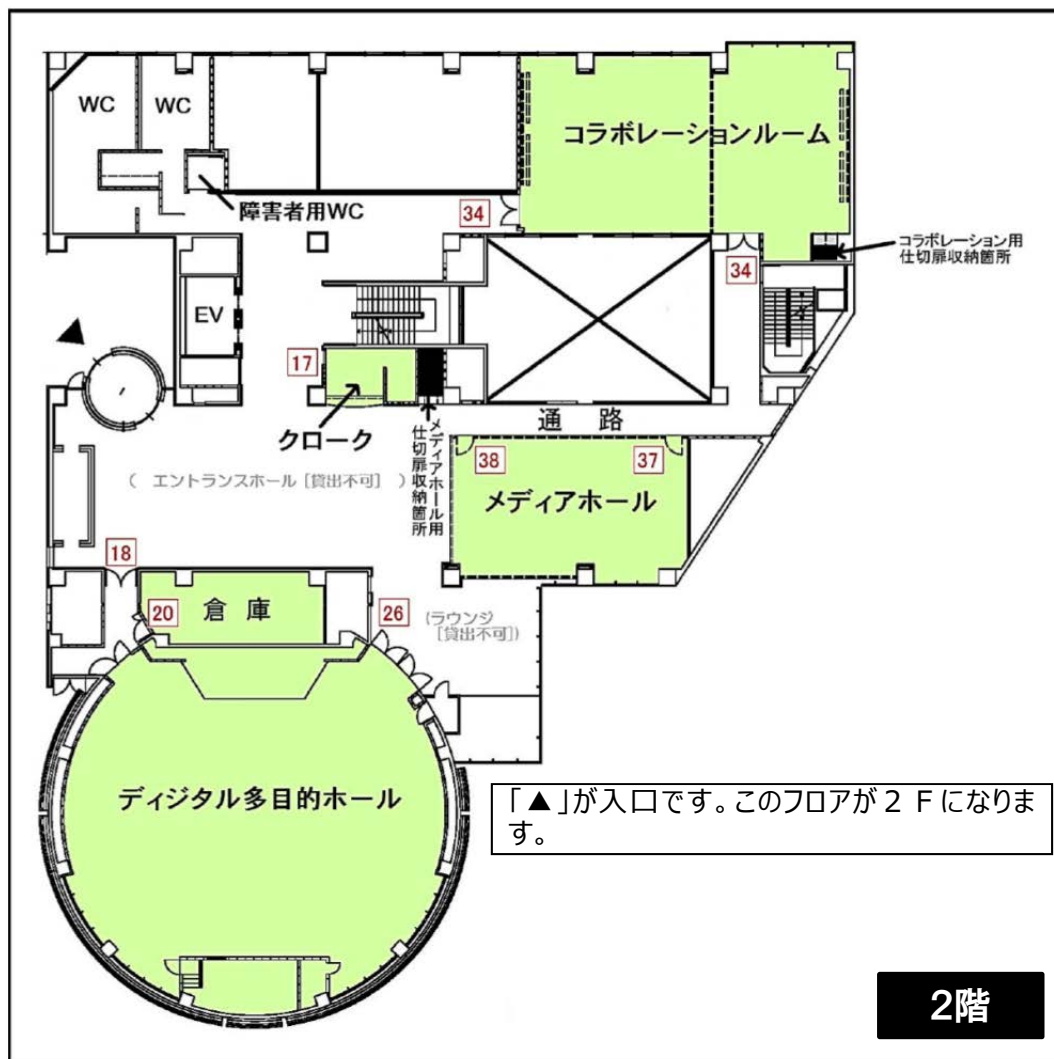


【東京工業大学大岡山キャンパスまでの路線案内】

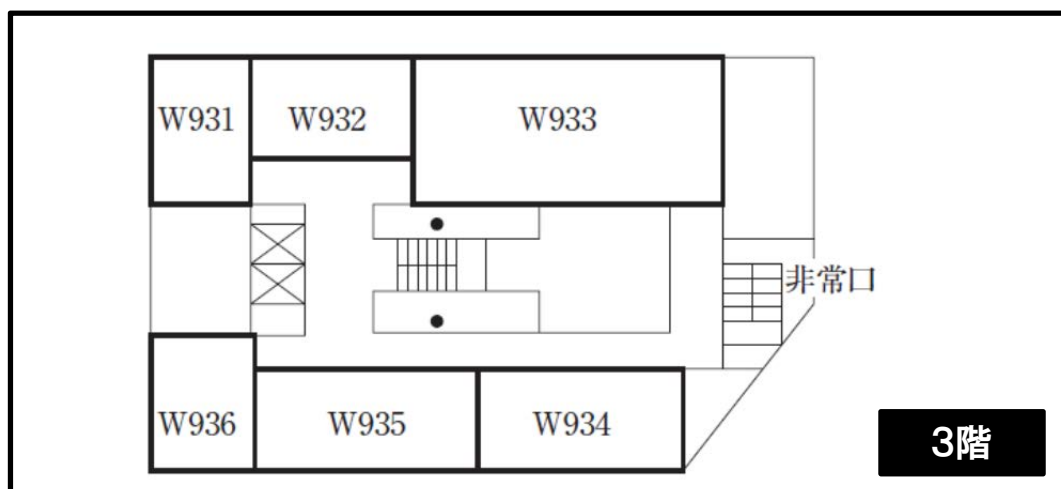


【東京工業大学大岡山キャンパス西 9 号館 案内図】

－ 会場案内 －



【大岡山キャンパス西 9 号館 2 F】



【大岡山キャンパス西 9 号館 3 F】

— プログラム・会場対応表 —

－ 研究発表会プログラム －

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

ポスター発表 9月21日(金)ー2日目ー 11:00～14:00 [会場:コラボレーションルーム]	
11:00～12:00	コアタイムA(発表番号末尾奇数番)
13:00～14:00	コアタイムB(発表番号末尾偶数番)
セッションA 河川環境	
PA-1	山間地河道のStep-Pool形成における川幅と河岸粗度の効果:「研」 ○塩澤翔平(岐阜大学)・原田守啓(同)・國島佑紀(同)
PA-2	菊池川流域における溪流地質と河床堆積域での有機物分解:「研」 ○笠原玉青(九州大学)・彭瑞欣(同)
PA-3	地質によって異なる河川基底流量及び水温の縦断方向変化:「研」「審」 ○佐藤辰郎(九州大学)・西田健人((株)リバー・ヴィレッジ)・秋庭広大(九州大学)・鬼倉徳雄(同)・島谷幸宏(同)
PA-4	自然堤防帯河川の高水敷掘削後の土砂再堆積～揖斐川と長良川の比較検討～:「研」 ○角田美佳(岐阜大学)・原田守啓(同)・岩田奨平(同)
セッションB 河川植生・水生植物	
PB-1	河川域における樹林の保全重要性評価:小貝川での検討:「研」「審」 ○宮脇成生((株)建設環境研究所)・並木和弘(同)・西廣淳(東邦大学)
PB-2	河道内植生管理におけるUAV空中写真の多面的な活用方法の検討:「事」 ○佐貫方城((株)ウエスコ)・宮田真考(同)・草加大輝(同)・服部満博(同)
PB-3	ヤナギ繁茂抑制手法の適用に向けたヨシ・オギの存続性の現状把握—河川水辺の国勢調査を利用した検討—:「研」「審」 ○兼頭淳(土木研究所／(株)建設技術研究所)・森照貴(土木研究所)・小野田幸生(同)・中村圭吾(同)・萱場祐一(同)
PB-4	特定外来生物ブラジルチドメグサ・ナガエツルノゲイトウの分布特性と生物多様性への影響評価:「研」「審」 ○山下大佑(熊本大学)・上杉幸輔(国土交通省)・皆川朋子(熊本大学)
PB-5	中小河川における外来植物の影響評価と除去の効果:船橋市木戸川での検討:「研」「審」 ○井上綾佳(東邦大学)・西廣淳(同)
PB-6	霞ヶ浦における土壌シードバンクの種多様性および種子密度の変化:「研」「審」 ○安藤果純(東邦大学)・Im Ran-Young(同)・Kim Ji Yoon(同)・矢野徳也(同)・西廣淳(同)
PB-7	水田に生育する一年草の絶滅危惧種スズメハコベの保全の試み—道路事業に伴う環境保全技術事例—:「事」 今井久子((株)環境アセスメントセンター)・栗原淳(同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションC 底生動物

- PC-1 **菊池川におけるイシガイ目二枚貝の分布と生息制限要因:「研」「審」**
○斎藤謙伍(九州大学)・林博徳(同)・大坪寛征(日本工営(株))・島谷幸宏(九州大学)
- PC-2 **木曽川河道内氾濫原における10年間の地形・二枚貝類の変化:「研」**
○永山滋也(岐阜大学／(株)建設環境研究所)・根岸淳二郎(北海道大学)・原田守啓(岐阜大学)・萱場祐一(土木研究所)
- PC-3 **木曽川水系の河道内湿地における水生昆虫群集の特徴—堤内地水田との生息状況の比較—:「研」「審」**
○田和康太(土木研究所)・永山滋也(岐阜大学)・中村圭吾(土木研究所)
- PC-4 **河川水辺の国勢調査を利用した地質が底生動物に与える影響評価:「研」「審」**
○池上龍(いであ(株))・皆川朋子(熊本大学)・一柳英隆(同)
- PC-5 **出水攪乱による平地河川の底生動物群集の変動:「研」「審」**
○福崎健太(愛媛大学)・三宅洋(同)・目崎文崇(同)
- PC-6 **重信川で発生した記録的出水による底生動物・魚類群集の変動:「研」「審」**
○角田康祐(愛媛大学)・三宅洋(同)・渡辺裕也(愛媛大学／フジタ建設コンサルタント)・井上幹生(愛媛大学)
- PC-7 **矢作川水系におけるヨウクルカワゲラの生活史:「研」「審」**
○市川隼也(愛知工業大学)・内田臣一(同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションD 魚類

- PD-1 **平成29年7月九州北部豪雨の被災地域の魚類相:「研」「審」**
○菅野一輝(九州大学)・鹿野雄一(同)・巖島怜(同)・山下奉海(同)・佐藤辰郎(同)・皆川朋子(熊本大学)
- PD-2 **中国地方一級水系における河川水温の時空間変動特性と冷水性魚類の分布の関係性:「研」「審」**
○河野誉仁(山口大学)・赤松良久(同)・乾隆帝(同)・後藤益滋(同)
- PD-3 **高津川水系におけるイワナおよびサクラマス分布と河川水温の関係性:「研」**
○乾隆帝(山口大学)・河野誉仁(同)・赤松良久(同)・栗田喜久(九州大学)・後藤益滋(山口大学)
- PD-4 **冬季の魚類群集構造における河川水温の影響:「研」「審」**
○嶋田大介(帯広畜産大学)・赤坂卓美(同)・谷口義則(名城大学)・河口洋一(徳島大学)・野本和宏(釧路市立博物館)
- PD-5 **湧水環境依存種の生息場回復に向けた湧水ポテンシャル分布の評価:「研」「審」**
○吉川慎平(大同大学)・鷺見哲也(同)
- PD-6 **谷津の小河川におけるスナヤツメ孤立個体群の生息環境と存続可能性の検討:「研」「審」**
○平野佑奈(東邦大学)・木寺法子(東邦大学／現岡山理科大学)・今藤夏子(国立環境研究所)・西廣淳(東邦大学)
- PD-7 **農業水路の環境配慮区間における魚類の移動と有効性:「研」**
○中田和義(岡山大学)・久保田由香(同)・門脇勇樹(同)・佐貫方城((株)ウエスコ)
- PD-8 **濁水がアユの行動に及ぼす影響:河川間の移動に注目した野外操作実験:「研」**
○森照貴(土木研究所／東京大学)・加藤康充(土木研究所／(株)建設環境研究所)・高木哲也(土木研究所／(株)応用地質)・小野田幸生(土木研究所)・萱場祐一(同)
- PD-9 **水田地帯を流れる小河川におけるニホンウナギ *Anguilla japonica* の流れ分布と微生物環境:「研」**
○久米学(京都大学)・寺島佑樹(同)・和田敏裕(福島大学)・山下洋(京都大学)
- PD-10 **沖縄県金武ダムにおける絶滅危惧種タナゴモドキの生息場創出:「事」「審」**
○鳥居高志(いであ(株))・池原浩太(同)・町田宗久(沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所)・平良譲治(同)
- PD-11 **室見川のシロウオの産卵環境と地域による産卵場造成:「事」**
○伊豫岡宏樹(福岡大学)・皆川朋子(熊本大学)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションE 魚道・横断工作物

- PE-1 **粗石魚道の配列の組み合わせとアユの遡上行動について:「研」「審」**
○船越智瑛(東洋大学)・青木宗之(同)
- PE-2 **ハーフコーン型水田魚道の遡上効果-季節および昼夜における相違-:「研」「審」**
○三宅凜太郎(兵庫県立大学)・竹下邦明(福建調査設計(株))・都築隆禎(リバーフロント研究所)・中田育伺(国交省近畿地整豊岡河川国道事務所)・佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PE-3 **鎌谷川流域におけるナガレホトケジウの生息規定要因-魚道敷設による水域連続性の確保が与える影響-:「研」「審」**
○中晶平(兵庫県立大学)・佐川志朗(兵庫県立大学/兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PE-4 **砂防堰堤スリット化後の溪流河川におけるサクラマス産卵環境の提供:「研」**
○渡邊一哉(山形大学)・大場梢(国交省東北地整)・佐藤高広((株)復建技術コンサルタン)・鈴木悠斗(山形県内水面水産試験場)・荒木康男(同)

セッションF ダム湖・ダム下流

- PF-1 **植物にとっての植食性昆虫からのレフュージアとしてのダム湖の水位変動帯:「研」**
○徳田誠(佐賀大学)
- PF-2 **底生動物群集へ及ぼす貯水ダムの影響:メタ群集およびγ多様性に着目して:「研」「審」**
○佐藤智春(奈良女子大学)・松岡真梨奈(同)・水守裕一(兵庫県立大学)・覚田青空(奈良女子大学)・土居秀幸(兵庫県立大学)・片野泉(奈良女子大学)
- PF-3 **水生昆虫成虫の分散におよぼすダムの影響:「研」「審」**
○松岡真梨奈(奈良女子大学)・水守裕一(兵庫県立大学)・布野隆之(兵庫県立人と自然の博物館)・一柳英隆(九州大学)・土居秀幸(兵庫県立大学)・片野泉(奈良女子大学)
- PF-4 **ダム下流の砂州の固定化による土砂移動阻害メカニズムについての考察:「研」**
○水野敏明(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・北井剛(滋賀県立琵琶湖博物館/滋賀県土木交通部)・東善広(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- PF-5 **豊川上流域における付着藻類現存量の挙動と剥離条件の検討:「事」**
○堀田大貴((株)建設技術研究所)・長谷川正利(同)・杉浦岳(同)・宮本幸典(国交省設楽ダム工事事務所)・川村昭彦(同)

セッションG 河口域・汽水域

- PG-1 **河口干潟に生息するハクセンシオマネキの保全対策とその効果-四日市港臨港道路(震4号幹線)事業に伴う環境保全技術事例-:「事」**
○栗原淳((株)環境アセスメントセンター)・水谷いずみ(高松干潟を守ろう会)・今井久子((株)環境アセスメントセンター)・奥山健司(国交省中部地整四日市港湾事務所)
- PG-2 **河口干潟の塩沼地を保全するための対策とその効果-四日市港臨港道路(震4号幹線)事業に伴う環境保全技術事例-:「事」**
○栗原淳((株)環境アセスメントセンター)・葛山博次(三重自然誌の会)・今井久子((株)環境アセスメントセンター)・奥山健司(国交省中部地整四日市港湾事務所)
- PG-3 **相補性解析を用いた鳥類の保全に向けた重要な河口域飛来地の抽出:「研」「審」**
○田辺篤志(熊本大学)・皆川朋子(同)・小山彰彦(同)
- PG-4 **カニ類・ハゼ類を指標とした河川汽水域の保全上重要な流域の環境特性の把握:「研」「審」**
○小山彰彦(熊本大学)・乾隆帝(山口大学)・鬼倉徳雄(九州大学)・皆川朋子(熊本大学)
- PG-5 **沖縄県中城湾のトカゲハゼの保全に配慮した移入マングローブの大規模駆除の取り組み:「事」「審」**
○平中晴朗(沖縄環境調査(株))・國場豊(沖縄県土木建築部)・高里典男(同)・野原良治(同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションH 陸域・植生

- PH-1 徳島県鳴門市のハス田におけるカモ類の夜間飛来数と景観構造の関係:「研」
○角屋亮(徳島大学)・藪原佑樹(同)・河口洋一(同)
- PH-2 福井県越前市における野外コウノトリ(*Ciconia boycian*)の飛来地点の環境特性:「事」
「審」
○日和佳政(越前市産業環境部)・藤長裕平(同)・田和康太(土木研究所)・佐川志朗(兵庫県立大学)
- PH-3 兵庫県鎌谷川流域における淡水性カメ類の流程分布と生息場所特性:「研」「審」
○伊藤岳(兵庫県立大学)・久木田沙由理(同)・佐川志朗(兵庫県立大学／兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PH-4 円山川水系における淡水性カメ類の流域スケール解析:「研」「審」
○久木田沙由理(兵庫県立大学)・伊藤岳(同)・佐川志朗(兵庫県立大学／兵庫県立コウノトリの郷公園)
- PH-5 湯沢砂防事務所における砂防堰堤の建設に伴う両生類の保全対策:「事」
○後藤健(国交省湯沢砂防事務所)・川邊三寿帆(同)・高嶋啓伍(同)・島村彰((株)建設環境研究所)・横山良太(同)・関根洋(同)・見澤康充(同)
- PH-6 UAVを使った森林ギャップ指標の算出と森林モニタリングにおける有用性の検証:「研」
○丹羽英之(京都学園大学)・佐藤龍太(同)
- PH-7 平成29年九州北部豪雨斜面崩壊地を対象とした植生の斜面崩壊抑制に関する研究:「研」「審」
○浅田寛喜(熊本大学)・皆川朋子(同)
- PH-8 草原植物の保全に資する緑地管理技術の検討ー土壌の攪乱は有効な技術に成り得るかー:「研」「審」
○野田颯(東邦大学)・加藤大輝(同)・西廣淳(同)
- PH-9 谷津湿地の放棄や改良に伴う生物多様性、水質、雨水流出への効果に関する調査ー谷津のGreen Infrastructureとしての評価を念頭にー:「研」「審」
○加藤大輝(東邦大学)・佐藤慶季(同)・高津文人(国立環境研究所)・大槻順朗(土木研究所)・西廣淳(東邦大学)

セッションI 物質循環・水質

- PI-1 生態系による窒素除去の持続性に関する考察:「事」「審」
○松下太郎((株)ウエスコ)・山下博康(同)・渡辺敏(同)・野口幸雄(豊中市都市基盤部)・山橋正明(同)・松原啓充(同)
- PI-2 ホテイアオイ(*Eichhornia crassipes*)における鉛及び銅の蓄積とその影響ーファイトレメディエーションの基礎研究としてー:「研」「審」
○中田愛理(東京学芸大学)・吉富友恭(同)・鈴木享子(同)・及川将一(放射線医学総合研究所)・武田志乃(同)
- PI-3 下水処理水修景水路に発生する藻類の変化とその対策に関する研究:「研」
○渡部守義(明石工業高等専門学校)・高見徹(西日本工業大学)・大島靖弘(明石工業高等専門学校)・重松奨太(同)
- PI-4 斎藤湖における陸域からの溶存鉄の供給機構と分布特性:「研」
○駒井克昭(北見工業大学)・大石将己(荒井建設(株))・園田武(東京農業大学)・佐藤辰哉(北見工業大学)・広木駿介(同)
- PI-5 溪畔林-溪流における生態系構成要素の放射性セシウム¹³⁷濃度変化:「研」
○大山義人(東京農工大学)・千野結子(同)・五味高志(同)
- PI-6 知床半島東岸河川における蛍光性溶存有機物を用いた河川水の特異性評価:「研」「審」
○広木駿介(北見工業大学)・駒井克昭(同)・松本経(同)・佐藤辰哉(同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションJ 環境DNA

- PJ-1 **河川水辺の国勢調査における捕獲調査と環境DNA分析による確認種の比較:「事」「審」**
○池田欣子(アジア航測(株))・沖野友祐(同)・清重亜美(国交省近畿地整淀川河川事務所)・稲垣茂人(同)
- PJ-2 **那賀川中上流域における環境DNAを用いた魚類調査の試行:「研」「審」**
○岡田泰明(パシフィックコンサルタンツ(株))・渡部健(同)
- PJ-3 **河川下流域における環境DNAメタバーコーディング解析の適用可能性に関する研究:「事」**
平田真二((株)エコー)・飯田岳(同)・田村圭一(同)・○江上和也(同)
- PJ-4 **環境DNAを用いた瀬淵スケールを対象としたアユの生息量評価に関する基礎研究:「研」「審」**
○薬師寺弘幸(熊本大学)・秋山秀樹(国土交通省)・皆川朋子(熊本大学)・土居秀幸(兵庫県立大学)
- PJ-5 **河川におけるコイ環境DNAの移流と減衰に関する研究:「研」「審」**
○糠澤桂(宮崎大学)・浜砂有紀(同)・鈴木祥広(同)
- PJ-6 **アカミガメを対象とした野外における環境DNA検出阻害要因の検討:野外での環境DNA検出確率の向上に向けて:「研」「審」**
○覺田青空(奈良女子大学)・東垣大祐(愛媛大学)・源利文(神戸大学)・土居秀幸(兵庫県立大学)・片野泉(奈良女子大学)
- PJ-7 **環境DNAを用いたイシガイ・ヌマガイの調査手法に関する基礎研究:「研」「審」**
○川浪健太郎(熊本大学)・皆川朋子(同)・栗田喜久(九州大学)・土居秀幸(兵庫県立大学)・林博徳(九州大学)・小山彰彦(熊本大学)
- PJ-8 **マイクロサテライトマーカーを利用した環境DNAの種特異的PCRによる水生生物の生息域検索:「研」**
○八重樫咲子(山梨大学)・清水隆二(同)・村松和十(同)

セッションK 親水・利用

- PK-1 **親水整備された河川空間における来訪者の行動特性 —源兵衛川を対象として—:「研」「審」**
○河西貴史(東京学芸大学／現国土地理院)・吉富友恭(東京学芸大学)
- PK-2 **子供を河川に誘引する生物相の把握:「研」「審」**
○目崎文崇(愛媛大学)・三宅洋(同)
- PK-3 **遊水地のグリーンインフラ化に向けた課題把握と地域住民の価値認識:「研」「審」**
○諏訪夢人(東邦大学)・柴田裕希(同)・西廣淳(同)
- PK-4 **「経験の絶滅」時代における癒しの選択肢としての自然土地利用—緑地未利用者層の実態把握—:「研」「審」**
○古賀和子(東邦大学／千葉大学)・西廣淳(東邦大学)・岩崎寛(千葉大学)
- PK-5 **五島列島福江島三井楽における海洋保護区の保存管理と利活用検討:「事」**
○清野聡子(九州大学)・會津光博(同)・櫻田歩夢(同)・坂本峻(JR東日本)

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

口頭発表 9月22日(土)ー3日目ー 9:00～15:30 [会場:デジタル多目的ホール]**セッションA 魚類生息環境****9:00 OA-1 「巨椋池を活用した淀川三川合流域における治水効果と魚類の生息場創出の検討」:「研」「審」**

○奥西健斗(摂南大学)・石田裕子(同)・澤井健二(同)・瀬良昌憲(同)・北村美紗樹(水資源機構)・小川芳也((株)近畿地域づくりセンター)・前川勝人(水辺に学ぶネットワーク)・北村幸定(大阪府立大学)・平子遼(同)

9:15 OA-2 「魚類群集の多様性に資する生息場構成の分析」:「研」「審」

○横田康平(京都大学)・竹門康弘(同)・藤原正幸(同)

9:30 OA-3 「蛇行形状の違いに伴う流れ・河床変動特性が魚類行動に与える影響の考察」:「研」「審」

○久加朋子(北海道大学)・山口里実(寒地土木研究所)・布川雅典(同)・杉原幸樹(同)

9:45 OA-4 「天竜川における湧水を活用したアユ産卵床再生」:「研」「審」

○兵藤誠(いであ(株))・高橋真司(京都大学)・竹門康弘(同)・角哲也(同)

10:00 OA-5 「球磨川下流の汽水域における希少魚介類の生息場特性」:「研」「審」

○大須賀麻希((株)建設技術研究所)・坂本健太郎(同)・若林瑞希(九州大学)・鬼倉徳雄(同)

10:15 OA-6 「治山ダム切り下げに伴う生物・物理応答～事前事後9年間の魚類・生息場の変化～」:「研」

○永山滋也(北海道大学/岐阜大学)・瀬野太郎(北海道大学/ユーラスエナジー)・石山信雄(北海道大学)・川合英之(北海道大学/三菱マテリアル)・河口洋一(徳島大学)・中野大助(北海道大学/電中研)・中村太士(北海道大学)

10:30 OA-7 「釧路湿原茅沼地区での旧川復元による魚類の生息環境の多様化と生息魚類の変化」:「事」「審」

○山本太郎(北海道河川財団)・石田憲生((株)ドーコン)・小澤徹(北海道開発局釧路開発建設部)・稲垣乃吾(同)

セッションB 魚道**10:45 OB-1 「宮中取水ダム魚道におけるサケ遡上数の自動計数」:「事」**

竹内洋介(東日本旅客鉄道(株))・枡本拓(同)・青木克憲(同)・奥富誠(同)・空閑徹也(同)・金子泰通(日本工営(株))・権田豊(新潟大学)

11:00 OB-2 「柏木砂防堰堤魚道改修後の魚道効果検証の取組み」:「事」「審」

篠原幸夫(国交省関東地整利根川水系砂防事務所)・岩井潤一(同)・風間宏(同)・安田陽一(日本大学)・岩瀬貴裕((株)建設技術研究所)・井上創(同)・那須正英(同)・澤樹征司(同)

11:15 OB-3 「徳島県日和佐川に設置した木製可搬魚道の通し回遊性生物による利用状況」:「事」「審」

○齋藤稔(徳島大学/四国の右下生き物研究会)・小部博正(NPO法人日和佐ましおこし隊)・米澤隆志(同)・米澤孝康(四国の右下生き物研究会)・浜野龍夫(徳島大学/四国の右下生き物研究会)・高橋直己(香川高等専門学校)

セッションC 外来種**11:30 OC-1 「千曲川中流域で繁殖するカワセミにおける、外来魚コクチバスの増加前後の雛への搬入食物の比較」:「研」**

○笠原里恵(弘前大学)・北野聡(長野県環境保全研究所)・傳田正利(土木研究所)・東信行(弘前大学)

11:45 OC-2 「三春ダムにおけるオオクチバス試験防除による個体の確認状況の変化」:「事」「審」

○坂本正吾(応用地質(株))・沖津二郎(同)・中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・中川博樹(国交省東北地整三春ダム管理所)・片寄仁(同)

12:00～13:00 — 休憩 —

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションD 河床・ダム下流環境

- 13:00 OD-1 「石礫床河川の河床環境評価が可能な数値計算モデルの開発」:**研**
○原田守啓(岐阜大学)・荒川貴都(国交省天竜川上流河川事務所)
- 13:15 OD-2 「淀川・点野水辺づくりプロジェクトの記録と河床変動解析を用いた検討」:**研****審**
○山内将之(摂南大学)・石田裕子(同)・玉井理恵(淀川管内河川レンジャー)
- 13:30 OD-3 「天竜川における河床地形及び河床変動量に基づく砂州の濾過機能評価」:**研****審**
○高橋真司(京都大学/東北大学)・兵藤誠(いであ(株))・谷高弘記(天竜川漁協)・角哲也(京都大学)・竹門康弘(同)
- 13:45 OD-4 「伝統的河川工法「牛類」の設置場所特性」:**研****審**
○田住真史(京都大学)・角哲也(同)・竹門康弘(同)
- 14:00 OD-5 「河床の岩盤化、巨石化を伴う粗粒化程度の定量化手法の試み」:**研****審**
○波多野圭亮(京都大学)・竹門康弘(同)・角哲也(同)
- 14:15 OD-6 「耳川水系ダム通砂運用に伴う魚類への影響について」:**事****審**
○梶原慎介(九州電力(株))・中野大助(九州電力(株)/電力中央研究所)・深池正樹(九州電力(株))
- 14:30 OD-7 「耳川ダム通砂運用に伴う土砂供給によるハビタットの多様化」:**事**
○中野大助(九州電力(株)/電力中央研究所)・古庄龍悟(九州電力(株))・梶原慎介(同)・深池正樹(同)

セッションE 河川植生

- 14:45 OE-1 「衛星画像および地形データに機械学習法を適用した河川における植生分類手法の検討」:**研****審**
○宮脇成生((株)建設環境研究所)・伊川耕太(同)・鈴置由紀洋(日本スペースイメージング(株))・鈴木研二(同)
- 15:00 OE-2 「利根川下流域における絶滅危惧種オオセッカ・コジュリンの繁殖環境回復を目指したヨシ原の自然再生」:**研****審**
○佐藤礼二(国交省利根川下流河川事務所)・椎名壮(同)・平田真二((株)エコー)・白尾豪宏(同)・江上和也(同)
- 15:15 OE-3 「改良芝の活用による河川堤防法面の張芝の長寿命化に関する検討」:**研****審**
○鈴木太郎((株)建設技術研究所)・宮島泰志(同)・原田佐良子(国交省九州地整)・山崎幸栄(同)・古賀尚永(国交省九州地整九州技術事務所)・高地真由美(国交省九州地整)

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

口頭発表 9月22日(土)ー3日目ー 9:00～15:00 [会場:W933]**セッションF 水質**

- 9:00 OF-1 「リン酸―酸素同位体分析に使用するオルトリン酸の濃縮分離方法の改良」:**研**
○神谷宏(島根県保健環境科学研究所)・加藤季晋(同)・松尾豊(同)・菅原庄吾(島根大学)・清家泰(同)
- 9:15 OF-2 「児島湖のリン循環ー浮遊系・底生系カップリングモデルによる解析」:**研****審**
○山本民次(広島大学)・千田智史(同)・小野寺真一(同)・斎藤光代(岡山大学)
- 9:30 OF-3 「Causality analysis and prediction of 2-methylisoborneol production in Kamafusa Reservoir」:**事****審**
○WANG Manna (Tokyo Institute of Technology)・YOSHIMURA Chihiro(同)・KIMURA Fuminori (Japan Water Resources Environment Center)

セッションG 環境DNA

- 9:45 OG-1 「組織抽出DNAを用いたMiFish解析による環境DNA分析精度の検証」:**研**
○村岡敬子(土木研究所)・相島芳江(同)・加藤徳子(同)・鈴木宏幸(同)・中村圭吾(同)
- 10:00 OG-2 「モバイルPCR装置による環境DNAの現場迅速検出システムの開発」:**研****審**
○渡部健(パシフィックコンサルタンツ(株))・林麻里絵(同)・門脇勇樹(同)・真木伸隆(同)・濱田敏宏(同)・池田幸資(同)・福澤隆(日本板硝子(株))・大橋俊則((株)ゴーフォトン)・土居秀幸(兵庫県立大学)
- 10:15 OG-3 「河川における環境DNA含有物質動態の再現シミュレーション」:**研****審**
○山口皓平(山口大学)・赤松良久(同)・乾隆帝(同)・後藤益滋(同)・河野誉仁(同)

セッションH 猛禽類・里山環境

- 10:30 OH-1 「猛禽類アセスメントにおけるGPS発信機の有効活用事例の紹介」:**研**
中島拓也(Raptor Japsn)・阿部學(同)・橋本哉子(同)
- 10:45 OH-2 「砂防事業における猛禽類の生息に配慮したUAV運用ルールの検討」:**事****審**
後藤健(国交省北陸地整湯沢砂防事務所)・川邊三寿帆(同)・○堀裕和((株)建設技術研究所)・澤樹征司(同)・吉井千晶(同)
- 11:00 OH-3 「夜間の人工光が夜行性のトウキョウサンショウウオの行動に及ぼす影響」:**研****審**
○佐野尚毅(木更津工業高等専門学校)・三森彩音(同)・湯谷賢太郎(同)
- 11:15 OH-4 「キンラン属の種子由来の保全手法の確立にむけて」:**研****審**
○長谷川啓一(元国土技術政策総合研究所／(株)福山コンサルタント)・大城温(国土技術政策総合研究所)・長濱庸介(同)・井上隆司(同)・上野裕介(元国土技術政策総合研究所／石川県立大学)・山崎旬(玉川大学)・遊川知久(国立科学博物館)
- 11:30 OH-5 「Land-cover change and distribution of wetland species in the Yatsu landscapes developed in the Late Pleistocene middle terrace region」:**事****審**
○Ji Yoon Kim (Toho University)・Hiroki Kato(同)・Akira Noda(同)・Jun Nishihiro(同)
- 11:45 OH-6 「コウノトリ野生復帰地でのヘビ類の場所利用」:**研****審**
○田川愛(兵庫県立大学)・江崎保男(同)

12:00～13:00 — 休憩 —

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

「○」発表者、タイトルの後の「研」は研究報告、「事」は事例報告、「審」は審査対象

セッションI 底生動物・藻類

- | | | |
|-------|------|---|
| 13:00 | OI-1 | 「九州北部におけるイシガイ目二枚貝の分布とその生息環境特性」: 「研」 「審」
○林博徳(九州大学)・斎藤謙伍(同)・大坪寛征(日本工営(株))・稲熊祐介(西日本旅客鉄道(株))・島谷幸宏(九州大学) |
| 13:15 | OI-2 | 「緩勾配河川における絶滅危惧二枚貝 カワシンジュガイ属(<i>Margaritifera</i> spp.)による河川地形の変化」: 「研」 「審」
○三浦一輝(北海道大学)・渡辺のぞみ(同)・根岸淳二郎(同) |
| 13:30 | OI-3 | 「PITタグシステムによるザリガニ行動特性の把握」: 「研」 「審」
○飯村幸代(北海道栽培漁業振興公社)・中尾勝哉(同)・上田宏(同) |
| 13:45 | OI-4 | 「矢作川でのアユの生息環境の再生実験における底生動物の現存量と優占種」: 「研」
林尚吾(愛知工業大学)・○内田臣一(同) |
| 14:00 | OI-5 | 「溪流の水生昆虫は夜どこにいる?:瀬における空間分布の昼夜変化」: 「研」
○加賀谷隆(東京大学)・佐々木大輔(同) |
| 14:15 | OI-6 | 「河川環境における生物生産に与える洪水攪乱の影響 (1)水生昆虫類を指標として」: 「研」
○平林公男(信州大学) |
| 14:30 | OI-7 | 「御嶽山2014年噴火により噴出物が流入した濁川(王滝川支流)の付着藻現存量の推移」: 「事」
○野崎健太郎(椋山女学園大学) |

応用生態工学会 第22回東京大会 開催案内

開催日時 平成30年9月20日(木)～23日(日)

日程: 9月20日(木) エクスカーション(ハッ場ダム現場見学 他)
 9月21日(金) 研究発表会 ポスター発表、自由集会
 9月22日(土) 研究発表会 口頭発表、自由集会、懇親会
 9月23日(日) 総会(午前)、公開シンポジウム(午後)

会場: 東京工業大学 大岡山キャンパス, 西9号館(東京都目黒区大岡山2-12-1)

本大会は、土木学会継続教育(CPD)プログラムに申請予定。

参加申し込み(研究発表会・総会・エクスカーション)

URLの申し込みフォームで受け付けます。また、ファックスでの申し込みも可能です。参加申込書(裏面)に必要事項を記入の上、右記へファックスして下さい。なお、詳細は裏面をご参照ください。

●申し込みおよび問合せ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5

麹町ロイヤルビル405号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520

E-mail: tokyo_22th@ecesj.com

【大会実行委員長: 吉村千洋(東京工業大学准教授)】

公開シンポジウム「ダム湖や周辺環境の保全と再生に向けてーダム再生ビジョンと環境保全ー」

<日時> 平成30年9月23日(日曜日) 13:00～17:00

<場所> 東京工業大学大岡山キャンパス西9号館デジタル多目的ホール

公開シンポジウム
参加費: 無料

<開催主旨>

ダムは近年の気候変動の顕在化による洪水や渇水リスクの増大に対応する重要なインフラですが、環境への影響もあり、アセスメントに基づく様々な環境保全措置が実施されています。ダムの機能と生態系保全を両立させるため、ダム湖やダム下流の河川環境のより適切な管理が求められています。そこで公開シンポジウムを実施し、これらの課題に関する国内外の事例・知見を総括し、今後の課題や展望を議論します。

<プログラム>

13:00～13:05 挨拶・趣旨説明 吉村千洋大会実行委員長(東京工業大学准教授)
 13:05～14:00 招待講演(仮)「メコン川のダムの影響」 John.L.Sabo(アリゾナ州立大学教授)
 14:00～14:20 講演(仮)「土砂動態とダムに関する最新の知見」 角哲也(京都大学教授)
 14:20～14:40 講演(仮)「ダム下流生態系の管理と課題」 竹門康弘(京都大学准教授)
 14:40～15:00 講演(仮)「ダム再生ビジョンの紹介」
 奥田晃久(国土交通省水管理・国土保全局調整官)
 15:00～15:20 講演(仮)「グリーンレーザー等新技術の活用」
 中村圭吾(土木研究所水環境研究グループ上席研究員)
 15:20～15:40 講演(仮)「ダムの影響と可能な改善策に関する話題提供」
 根岸淳二郎(北海道大学准教授)

<休憩>

15:50～17:00 パネルディスカッション

コーディネーター: 吉村千洋(東京工業大学准教授), パネリスト: 講演登壇者

17:00 終了予定



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

後援予定

: 国土交通省関東地方整備局、河川財団、建設コンサルタンツ協会関東支部、
土木学会関東支部、日本緑化工学会、日本景観生態学会

会場と交通 (研究発表会・懇親会・公開シンポジウム)

【会場】

東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館

〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1

TEL 03-5841-8205(吉村研究室)

URL: <https://www.titech.ac.jp/maps/>

【交通】

東急大井町線・東急目黒線「大岡山」駅(急行停車駅)下車徒歩1分

＜主要駅からの所要時間目安＞

「東京」駅から約30分(JR京浜東北線・東急大井町線経由)

「羽田空港」から約50分

(東京モノレール・JR京浜東北線・東急大井町線経由)

参加費 (研究発表会・懇親会・エキスカージョン)

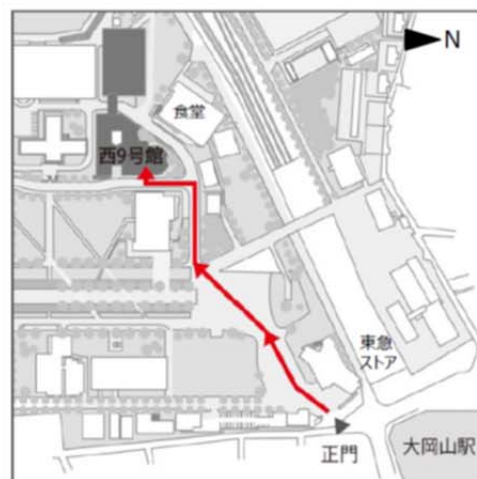
研究発表会 正会員・賛助会員:6,000円、非会員:10,000円、学生(会員・非会員)3,000円

参加費には発表講演集代が含まれております。発表講演集のみ希望の方は、3,000円で販売しております。

※大会期間中は9月21日(金)のみ学食の営業があります。大学周辺には飲食店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアがあります。別途1,000円でお弁当の用意ができます。必要な方は参加申込みと同時に申し込みにください。

エキスカージョン 会員(正会員・賛助会員):2,000円、非会員:3,000円、学生(会員・非会員):1,000円

懇親会 会員(正会員・賛助会員)・非会員5,000円、学生(会員・非会員)3,000円(当日徴収します。人数把握のため事前にお申込みください。)



参加費振込先 (研究発表会・懇親会・エキスカージョン)

銀行振込口座

銀行名: 東京三菱UFJ銀行麹町中央支店

口座番号:(普通)1302920

口座名称: 応用生態工学会(オウヨウセイタイコウガクカイ)

郵便振替口座

口座番号: 00140-7-404275

口座名称: 応用生態工学会

申込締切りは2018年8月31日(金)迄
振込締切りは2018年9月7日(金)迄

参加申込書 (研究発表会・懇親会・エキスカージョン)

URL: http://ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_con2018

FAX 宛先 03-5216-8520 E-mail: tokyo_22th@ecesj.com

(ふりがな) 氏 名				会員No.(正・学生・賛助)	
所 属					
連絡先 (自宅・所属) いずれかに○	〒 住所				
	TEL	e-mail:			
参加申込			参加費(必要箇所に✓)		
研究発表会 (発表要旨集代込)	9月21日(金)～22日(土)	参加・不参加	☐ 会員(6,000円) ☐ 非会員(10,000円) ☐ 学生(会員・非会員)(3,000円)		
懇親会	9月22日(土)	参加・不参加	【当日徴収します】(会員・非会員5,000円、学生3,000円)		
シンポジウム	9月23日(日)	参加・不参加	無料		
エキスカージョン	9月20日(木) ※定員になり次第、締め切ります。	参加・不参加	☐ 正会員・賛助会員(2,000円) ☐ 非会員(3,000円) ☐ 学生(会員・非会員)(1,000円)		
昼食の注文	9月21日(金)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)		
	9月22日(土)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)		
	9月23日(日)分	必要・不要	☐ 必要(1,000円)		
研究発表会に参加しないが、発表要旨集のみ希望 (研究発表会に参加される方は研究発表会参加費に発表要旨集代が含まれています。)					
参加費の合計			合計 円		
連絡事項	請求書を希望する場合は「請求書希望」と記載してください。				